

平成9年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

石原古墳群7号墳・兵部裏屋敷跡

1998

埼玉県熊谷市教育委員会

平成9年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

いしはらこふんぐん ひょうぶうらやしきあと
石原古墳群7号墳・兵部裏屋敷跡

1998

埼玉県熊谷市教育委員会

序

熊谷市は埼玉県北部の中核都市であり、歴史的にもゆかりのある土地であります。

石原地区は、市域の中央部にあたり、江戸時代には熊谷宿に隣接し中山道や秩父往還など主要な街道が通っていました。また、多くの古墳の存在が知られ、古代から多くの人々が生活の場としていたことが伺われます。

当地区の古墳群は、かつて四八塚と称され、市内で最も密集した古墳群を形成していました。残念ながら現在、墳丘を残す古墳は、数基のみとなっていて、ほとんどの古墳は墳丘を削平された状態です。

本市教育委員会は、高橋不動産株式会社から委託を受けて、分譲住宅予定地の発掘調査を実施しました。遺跡は、重要な文化財として、後世に残すことが第一に計られるべきですが、工事の性格上やむを得ず、記録保存の方策をとることになりました。

本書は、平成9年度に実施した石原古墳群7号墳と兵部裏屋敷跡の発掘調査の成果をまとめて報告するものです。

発掘調査によって得られた資料は、重要な文化遺産として、学術研究や学校・社会教育に資するものであると考えます。こうした、調査・報告を契機として、多くの市民の方々が、埋蔵文化財保護について、よりいっそうのご理解とご協力下さることを願ってやみません。

最後になりましたが、高橋不動産株式会社、ならびに地元石原地区の方々を始め、多くの方々からご指導・ご協力をいただきましたことに対して、深く感謝の意を表します。

平成10年3月

熊谷市教育委員会
教育長 岡嶋一夫

例　　言

- 1 本書は、埼玉県熊谷市大字石原字天神前1252番地26に所在する石原古墳群7号墳と兵部裏屋敷跡の発掘調査報告書である。
- 2 埼玉県教育委員会の指示通知は平成9年5月8日付け教文第3-100号である。
- 3 発掘調査は、分譲住宅建設に伴う事前調査であり、熊谷市教育委員会が実施した。
- 4 発掘調査及び整理、報告書作成期間は、下記のとおりである。

発掘調査期間 平成9年5月1日～5月12日

整理、報告書作成期間 平成10年2月2日～3月31日

- 5 発掘調査の担当、本書の執筆・編集は、熊谷市教育委員会金子正之が行った。
- 6 発掘調査の組織は次のとおりである。

調査主体者	熊谷市教育委員会教育長	岡嶋一夫
調査担当者	熊谷市教育委員会社会教育課係長	金子正之
事務局	〃	課長 大島常雄
	〃	副参事 鈴木敏昭
	〃	課長補佐 翠田晴夫
	〃	主任 権田宣行
	〃	渡邊 操
	〃	吉野 健

- 7 遺構の表記記号は、溝はM、土壙はD、ビットはPとする。
- 8 遺跡分布図・遺跡位置図・遺構図の縮尺は、次のとおりである。
遺跡分布図1/50,000、遺跡位置図1/5,000、全測図1/400、遺構図1/80
- 9 遺物観察及び遺構の土層の色調は『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修1993年版)を参考とした。
- 10 本書にかかる資料は熊谷市教育委員会で保管する。

目 次

序	
例 言	
目 次	
挿図目次	
図版目次	
I 発掘調査に至るまでの経過	1
II 遺跡の立地と環境	1
III 発掘調査の経過	4
IV 遺跡の概観	5
V 遺構と遺物	5
1 石原古墳群 7 号墳	5
2 兵部裏屋敷跡溝	5
3 兵部裏屋敷跡ビット	9
4 兵部裏屋敷跡土坑	9
5 兵部裏屋敷跡谷状遺構	10
6 遺構外出土遺物	10
VI 調査のまとめ	12

挿図目次

- | | |
|--------------------------------------|--------------------|
| 第1図 周辺遺跡分布図 | 第9図 兵部裏屋敷跡5号溝 |
| 第2図 石原古墳群7号墳・兵部裏屋敷跡位置図 | 第10図 兵部裏屋敷跡6号溝 |
| 第3図 石原古墳群7号墳・兵部裏屋敷跡全測図 | 第11図 兵部裏屋敷跡7・8号溝 |
| 第4図 石原古墳群7号墳 | 第12図 兵部裏屋敷跡9号溝 |
| 第5図 石原古墳群7号墳、兵部裏屋敷跡5号溝
・3号ピット出土遺物 | 第13図 兵部裏屋敷跡1～3号ピット |
| 第6図 兵部裏屋敷跡1・2号溝 | 第14図 兵部裏屋敷跡1・2号土坑 |
| 第7図 兵部裏屋敷跡3号溝 | 第15図 兵部裏屋敷跡谷状遺構 |
| 第8図 兵部裏屋敷跡4号溝 | 第16図 遺構外出土遺物 |

図版目次

- | | |
|-----------------------------|---|
| 図版1－1 北からの遠景 | 図版6－1 兵部裏屋敷跡5号溝 |
| 1－2 南からの近景 | 6－2 兵部裏屋敷跡2号ピット |
| 図版2－1 石原古墳群7号墳（西から） | 図版7－1 兵部裏屋敷跡3号ピット |
| 2－2 石原古墳群7号墳（南から） | 7－2 兵部裏屋敷跡1号土坑 |
| 図版3－1 石原古墳群7号墳南壁断面 | 図版8－1 兵部裏屋敷跡谷状遺構 |
| 3－2 兵部裏屋敷跡1号溝 | 8－2 発掘風景 |
| 図版4－1 兵部裏屋敷跡2号溝 | 図版9－1 発掘風景 |
| 4－2 兵部裏屋敷跡3～5号溝、
1～3号ピット | 9－2 発掘風景 |
| 図版5－1 兵部裏屋敷跡3号溝、1号ピット | 図版10－1 石原古墳群7号墳、兵部裏屋敷跡5号溝、
3号ピット出土遺物 |
| 5－2 兵部裏屋敷跡4号溝 | 10－2 遺構外出土遺物 |

I 発掘調査に至るまでの経過

平成8年7月30日付けで土地の所有者である笠井重雄氏から熊谷市教育委員会に今回の開発予定地内における埋蔵文化財の取扱いについて照会文書が提出され、熊谷市教育委員会は周知の遺跡であるので試掘調査を要する旨的回答を行った。熊谷市教育委員会は、笠井重雄氏から平成8年8月5日付で試掘調査の依頼を受け、平成8年8月19・20日に試掘調査を実施した。その結果、埋蔵文化財が確認され、その旨を笠井重雄氏へ回答するとともに、開発者である高橋不動産株式会社と熊谷市教育委員会において保存に関する協議を重ねたが、計画変更が不可能となったため、やむをえず記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は熊谷市教育委員会が実施することとなり、高橋不動産株式会社と熊谷市教育委員会は平成9年4月18日に埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書を締結した。また、高橋不動産株式会社から文化財保護法第57条の2第1項に基づく発掘届が、熊谷市教育委員会から文化財保護法第98条の2第1項に基づく発掘通知がそれぞれ文化庁へ提出され、平成9年5月1日から発掘調査が開始された。

なお、埼玉県教育委員会から高橋不動産株式会社あてに平成9年5月8日付け教文第3-100号で発掘調査の実施についての指示通知があった。

II 遺跡の立地と環境

熊谷市の地形は、大半が荒川左岸の沖積扇状地（熊谷扇状地）の低地と、利根川とその支流により形成された沖積地（妻沼低地）であり、西縁と南縁がそれぞれ洪積扇状地の櫛引台地と江南台地の末端にあたる。

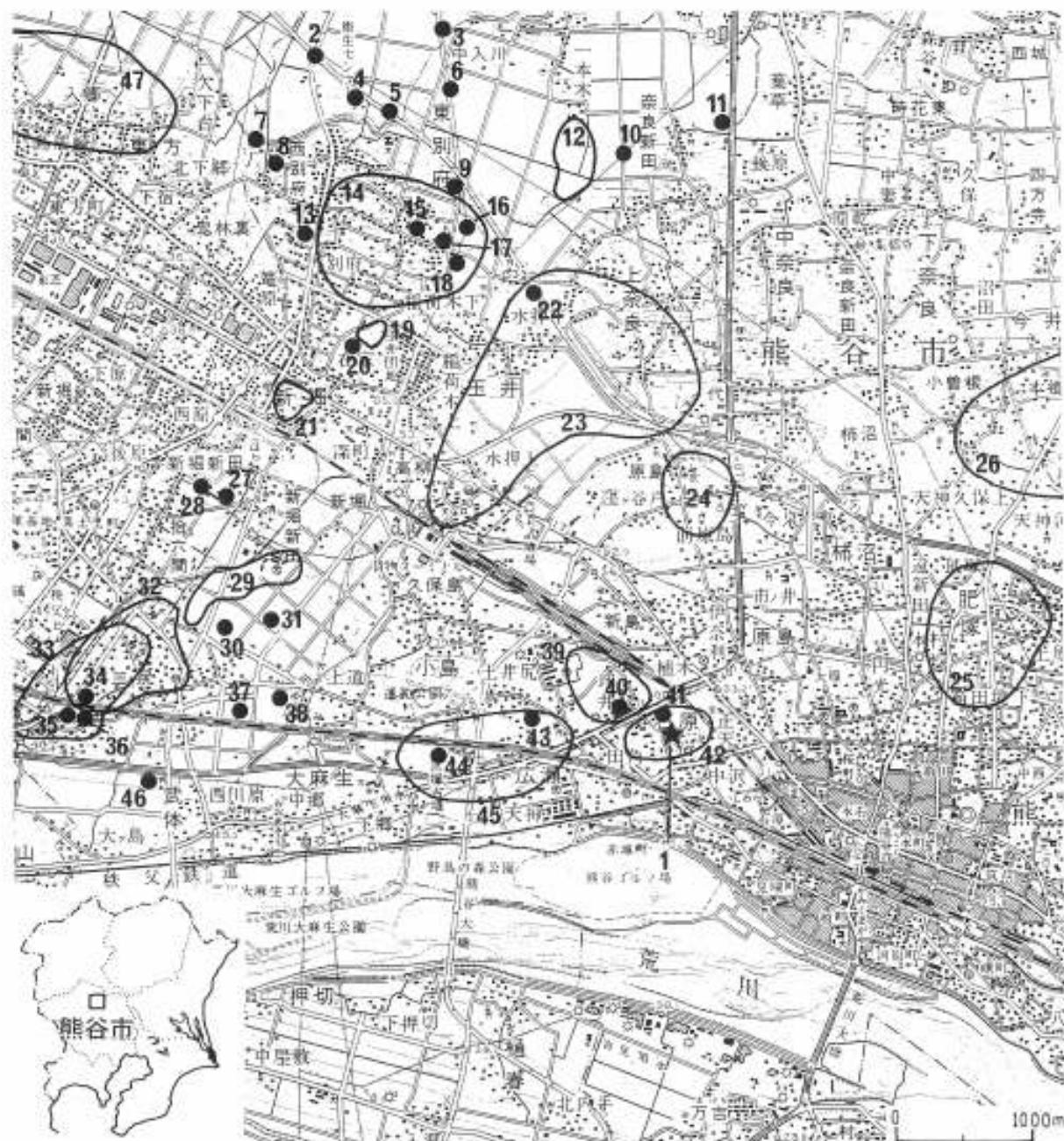
石原古墳群7号墳と兵部裏屋敷跡は、埼玉県熊谷市大字石原1252番地26に所在しており、JR高崎線熊谷駅の北西約2.5km、荒川から北へ約1.5kmに位置し、本遺跡の所在する石原地区は、熊谷市の中央部にあたり、石原米と言われ寿司用として使われるとてもおいしい米がとれる所である。

本遺跡は、熊谷扇状地に形成された自然堤防上に立地し、標高34～35mを測り、遺跡の北東側は1～2m程低く水田となっており、旧河道が走っていたと考えられる。

本遺跡は石原古墳群の中にあり、石原古墳群は8基の古墳が現在確認されている。本遺跡の北側にある天神前遺跡は、平成2年度の調査により古墳1基・溝跡・集石遺構が発見されている。石原古墳群の北には、坪井古墳群があり、7基の古墳が確認されているが、昭和47年に薬師堂古墳が調査され、控櫛の横穴式石室から銅鉗・耳環・直刀・刀子・鉄鎌・埴輪等が出土している。石原古墳群の西南には広瀬古墳群があり、上円下方墳という珍しい形で国指定史跡の宮塚古墳の他、8基の円墳と2基の方墳が確認されている。

熊谷市内には、石原地区以外にも古墳群が多く見られ、別府古墳群・玉井古墳群・原島古墳群・肥塚古墳群・中条古墳群などが市域の北側にある。西部には三ヶ尻古墳群があり、南部には村岡古墳群・潮戸山古墳群がある。

別府古墳群は、16基の円墳と1基の前方後円墳があり、昭和41年（1966年）に仲廓古墳の調査が行われ、円筒埴輪列の一部が検出されている。ヤス塚古墳からは農夫の埴輪が出土している。玉井古墳群は17基の円墳と2基の方墳があり、昭和55年（1980）に新ヶ谷戸遺跡が調査され、1号墳は洞張りの横穴式石室で土師器・須恵器・直刀・鉄鎌等が出土している。原島古墳群は、3基の円墳が確認されている。肥塚古墳群は、14基の円墳があり、平成4年（1992）に1号墳から3号墳の3基の円墳が調査され、洞張りの横穴式石室で円筒埴輪・形象埴輪・土



- 1 石原古墳群 7号墳・兵部裏屋敷跡 2 根絡遺跡 3 入川遺跡 4 横間栗遺跡 5 間下遺跡 6 深町遺跡
 7 西別府祭祀遺跡 8 西別府庵寺 9 八反田遺跡 10 中耕地遺跡 11 橫塚山古墳 12 一本木前遺跡 13 原遺跡
 14 別府古墳群 15 別府城跡 16 寺東遺跡 17 中廓古墳 18 ヤス塚古墳 19 在家古墳群 20 在家遺跡
 21 籠原裏古墳群 22 新ヶ谷戸遺跡 23 玉井古墳群 24 原島古墳群 25 肥塚古墳群 26 中条古墳群 27 堂西遺跡
 28 桜六間後遺跡 29 桶の上遺跡 30 若松遺跡 31 黒沢館跡 32 三ヶ尻遺跡 33 三ヶ尻古墳群 34 三ヶ尻林遺跡 4号墳
 35 二子山古墳 36 三ヶ尻80古墳 37 松原遺跡 38 庚申塚遺跡 39 坪井古墳群 40 菩提堂古墳 41 天神前遺跡
 42 石原古墳群 43 高根遺跡 44 宮塚古墳 45 広瀬古墳群 46 社裏遺跡 47 木の本古墳群

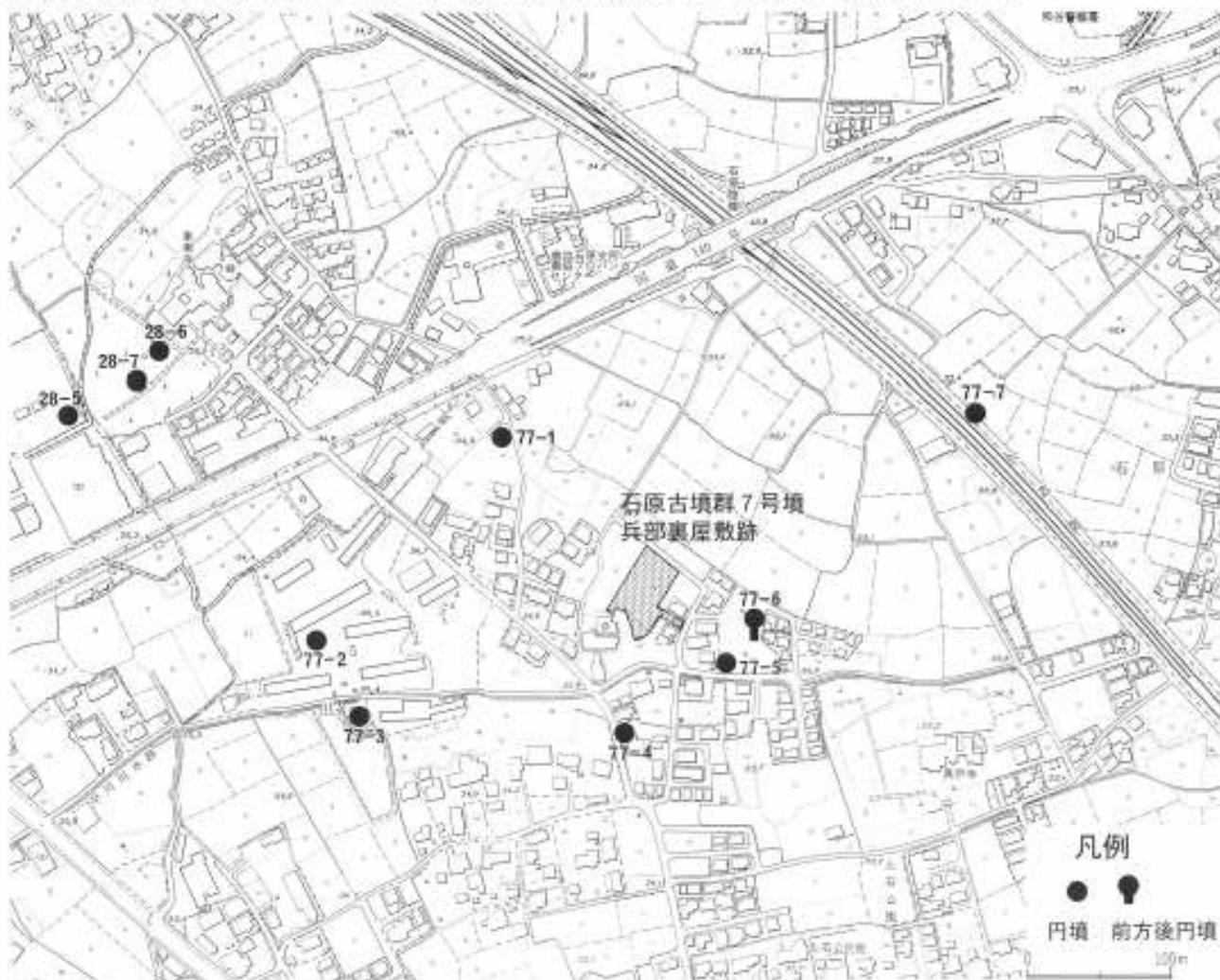
第1図 周辺遺跡分布図

師器・須恵器・直刀・耳環・鉢・滑石製模造品等が出土している。

中条古墳群は、22基の円墳と2基の帆立貝式前方後円墳が確認されている。昭和54年に鎧塚古墳が調査され、帆立貝式前方後円墳であり、円筒埴輪列が確認されるとともに2カ所の墓前祭祀の跡が確認され須恵器の高壇型器台・高壇や土師器の高壇・壇等が出土している。昭和56年には女塚1号～4号墳が調査され、1号墳は帆立貝式の前方後円墳で円筒埴輪列が確認され、盾を持つ武人埴輪も出土している。2号墳からは動物の形象埴輪（馬・猪・鹿）が出土している。昭和57年と59年に大塚古墳が調査され、胴張りの横穴式石室で複室構造であることが確認され、金装銅製鞞尻金具・鉄鎌・勾玉・金箔塗木棺片等が出土している。

三ヶ尻古墳群は、58基の円墳と二子山古墳と運搬塚の2基の前方後円墳があり、昭和53～55年に新幹線建設とそれに伴うセメント工場の貨物引込線拡張により発掘調査が行われ、22基の円墳が発見され調査されている。古墳跡が多くあったが、埴輪を持つものとそうでないものがあり、埋葬施設は河原石を利用した横穴式石室である。その中でやねや塚古墳は、保存状態がよく円筒埴輪列が一周しており円筒埴輪のほかに、人物・馬・太刀・家形埴輪などがあり、石室の中からは頭椎大刀・鉄鎌・刀子・耳環・銅鏡などが出土している。

村岡古墳群は、4基の円墳があり、瀬戸山古墳群は34基の円墳と1基の前方後円墳（伊勢山古墳）が確認されている。伊勢山古墳は、昭和36年（1961）に調査され、埋葬施設は片袖式の横穴式石室で直刀・刀子・鉄鎌・鉄製鎧・金環等が出土している。昭和52年（1977）には楊井薬師寺古墳が2基調査され、1号墳の埋葬施設は凝灰質砂岩の胴張り形の横穴式石室で、3号墳は直線洞の横穴式石室であること確認されている。

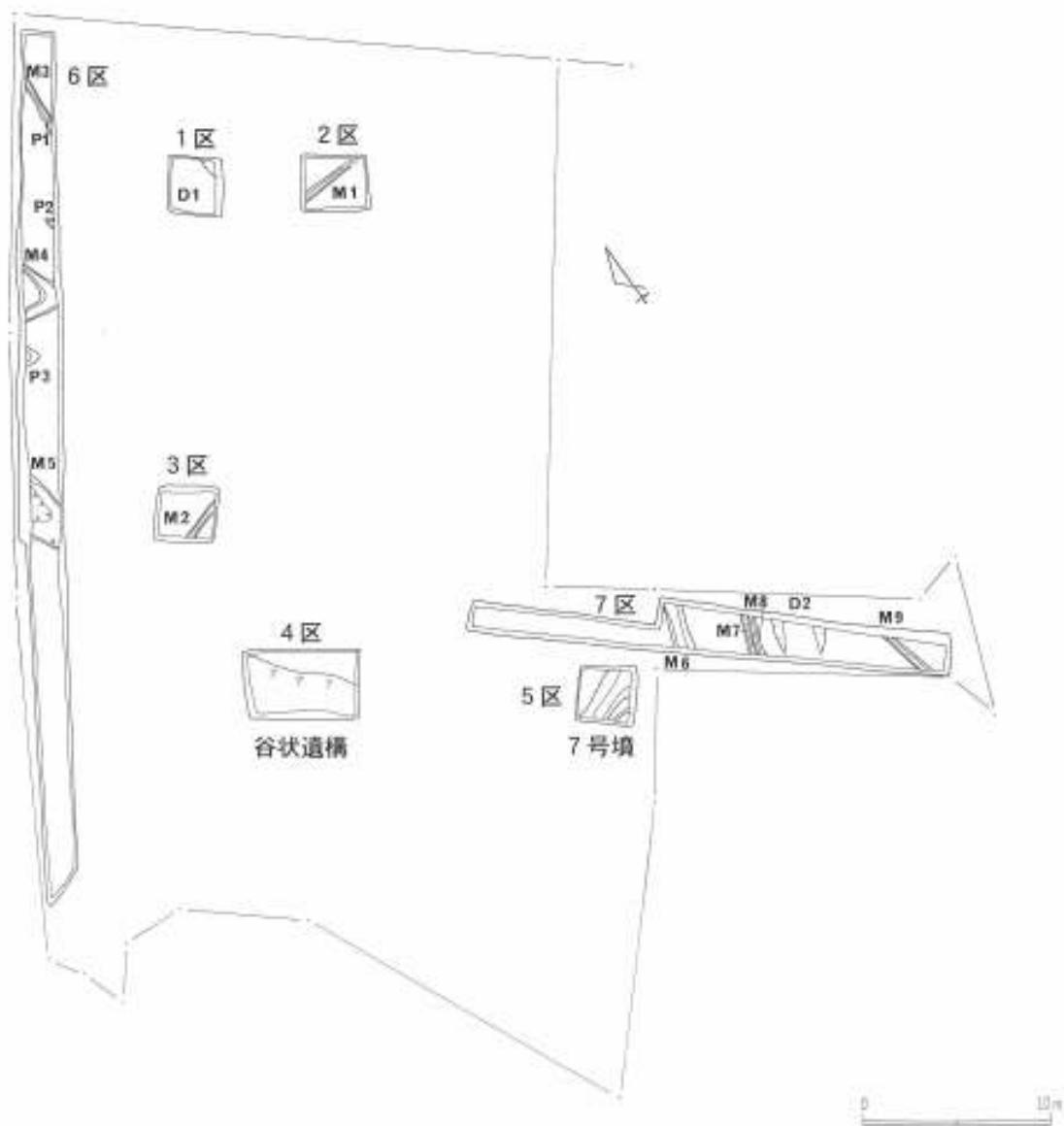


第2図 石原古墳群7号墳・兵部裏屋敷跡位置図(数字は県遺跡地名表番号)

III 発掘調査の経過

石原古墳群7号墳と兵部裏屋敷跡は、浄化槽・通路部分及び分譲する際の盛土が崩れないようにするための擁壁部分の調査を実施した。平成9年4月21日に浄化槽部分6カ所と擁壁部分の確認調査を重機により実施し、浄化槽部分は5カ所、擁壁部分は西側に遺構が検出された。浄化槽部分は、北にあるものを1区とし、その東を2区、1区の南を3区、3区の南を4区、4区の東を5区と称し、擁壁部分は6区と称し、通路部分は7区と称した。

表土剥ぎは、確認調査の際に重機によって掘り下げた。遺構確認は、人力によって行い、古墳の周溝・溝・ピット・土塁・谷状遺構が検出され、各遺構ごとに調査を行った。遺構ごとに手掘りを行い、写真撮影・実測を実施し、最後に全体の写真撮影を行い、全測図の実測をして、平成9年5月12日に現場での調査を終了した。



第3図 石原古墳群7号墳・兵部裏屋敷跡全測図

IV 遺跡の概観

石原古墳群7号墳と兵部裏屋敷跡は、熊谷市の中央部の西に当たり、JR高崎線熊谷駅から北西へ約2.5km、荒川から北へ約1.5kmに位置する。熊谷扇状地内の荒川左岸の自然堤防上に立地し、標高34~35mを測る。石原古墳群7号墳は周溝が検出され、兵部裏屋敷跡からは溝9条・ピット3個、土坑2基、谷状遺構1基が検出された。

7号墳の周溝は、一部分が確認され、埴輪片も数点確認されただけであった。

兵部裏屋敷跡は溝が9条確認され、4号溝は二股に分かれた状態で検出され、5号溝は北側に浅い落ち込みがみられた。ピットは3基とも調査区域外に広がりがあり、それぞれ約半分が確認された。谷状遺構は調査区域の南側の4区に検出されたが、東から西側へ落ち込んでいて深い部分は現地表から1.2mの深さであった。

V 遺構と遺物

1 石原古墳群7号墳 (第4・5図)

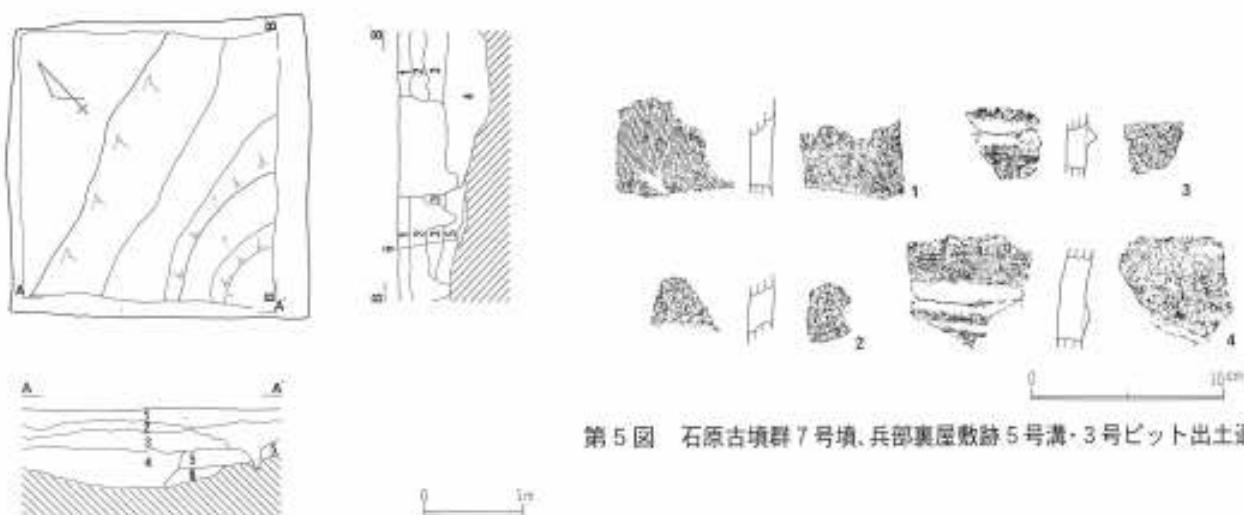
本古墳は、調査区域の南側に位置し、周溝の一部が確認された。周溝の墳丘側は2段になって立ち上がるが、外側はなだらかに上がっていた。確認された中で、周溝の上部最大幅は1.72m、深さは36cmであった。

遺物は、埴輪片が出土した。第5図-1は、円筒埴輪の胴部で、南西壁から出土し、外面は縦方向の刷毛目、内面は横方向の刷毛目の後、指などで調整されている。胎土は白色砂粒・雲母・赤褐色粒・黒色砂粒がみられ、焼成は良好で、色調は明赤褐色(2.5YR-5/6)である。第5図-2は円筒埴輪の胴部で、外面は縦方向の刷毛目、内面は指などで調整されている。胎土は白色砂粒と少量の雲母がみられ、焼成は良好で、色調は橙色(7.5YR-6/6)である。

2 兵部裏屋敷跡溝

1号溝 (第6図)

本溝は、2区から検出され、西から東に走っていて、主軸はほぼW-6-Nであった。土層は1層が耕作土、2層が暗灰黄砂質土(2.5Y-5/2)、3層が暗灰黄砂質土(2.5Y-4/2、浅間Aの火山灰を含む)、4層が黄褐色砂質土



第5図 石原古墳群7号墳、兵部裏屋敷跡5号溝・3号ピット出土遺物

第4図 石原古墳群7号墳

(2.5Y-5/3、浅間Aの火山灰を含む)、5層が灰黄褐色土(10YR-4/2)、6層が黒褐色(10YR-3/2、ロームブロックを含む)、7層が暗褐色土(10YR-3/3、ロームブロックを含む)であった。規模は、断面A-A'で上幅50cm、下幅18cm、深さ18cmであり、断面B-B'で上幅33cm、下幅16cm、深さ12cmであった。遺物は検出されなかった。

2号溝（第6図）

本溝は、3区に検出され西から東に走っていて、主軸はほぼW-10-Sであった。土層は、1層が耕作土、2層が暗灰黄砂質土(2.5Y-5/2)、3層が黄褐色砂質土(2.5Y-5/3)、4層が黒褐色土(10YR-3/2、黄褐色土のブロックを含む)、5層が灰黄褐色土(10YR-4/2、ローム粒子を含む)、6層が灰黄褐色土(10YR-4/2)、7層が砂層であった。規模は、断面A-A'で上幅62cm、下幅44cm、深さ26cmで、遺物は検出されなかった。

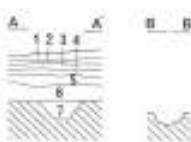
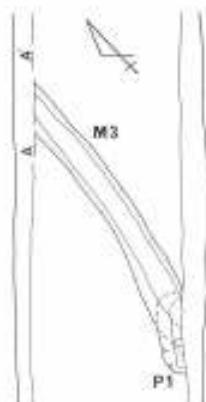
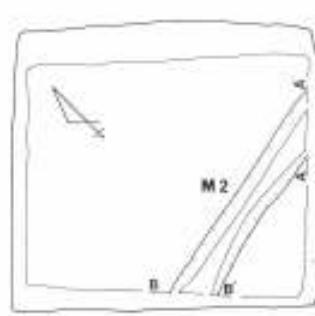
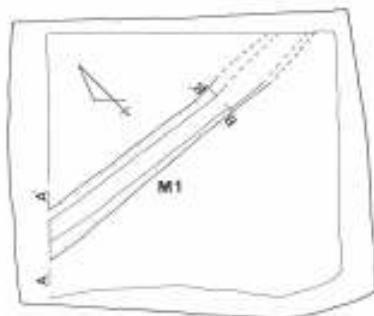
3号溝（第7図）

本溝は、6区の北側に検出され、南から北へ走っていて、主軸はほぼS-3-Wである。土層は、1層が耕作土、2層が黄褐色土(2.5Y-5/3、浅間Aの火山灰を含む)、3層は黒褐色土(10YR-3/2)、4層は灰黄褐色土(10YR-4/2)であった。規模は断面A-A'で上幅72cm、下幅18cm、深さ52cmであった。遺物は検出されなかった。

4号溝（第8図）

本溝は、6区で検出され、3号溝の南西約8mの位置にある。北から南へ走る溝と西から東へ走る溝が合流した部分と考えられる。南北方向の溝の主軸はほぼN-14-Wで、東西方向の溝はほぼW-11-Nである。断面A-A'の土層は1層が耕作土、2層が黄褐色砂質土(2.5Y-5/3、浅間Aの火山灰を含む)、3層が黒褐色土(7.5YR-3/1)、4層が暗褐色土(10YR-3/3)、5層が黒褐色土(10YR-3/2)である。断面B-B'の土層は、1層が耕作土、2層が黄褐色砂質土(2.5Y-5/3、浅間Aの火山灰を含む)、3層が黒褐色土(10YR-3/2)、4層が灰黄褐色土(10YR-4/2)である。断面C-C'の土層は1層が黒褐色土(10YR-3/1、褐灰色砂質土を含む)である。

規模は、断面A-A'で上幅36cm、下幅13cm、深さ17cmであり、断面B-B'では上幅47cm、下幅28cm、深さ12cmであった。遺物は検出されなかった。



第6図 兵部裏屋敷跡1・2号溝

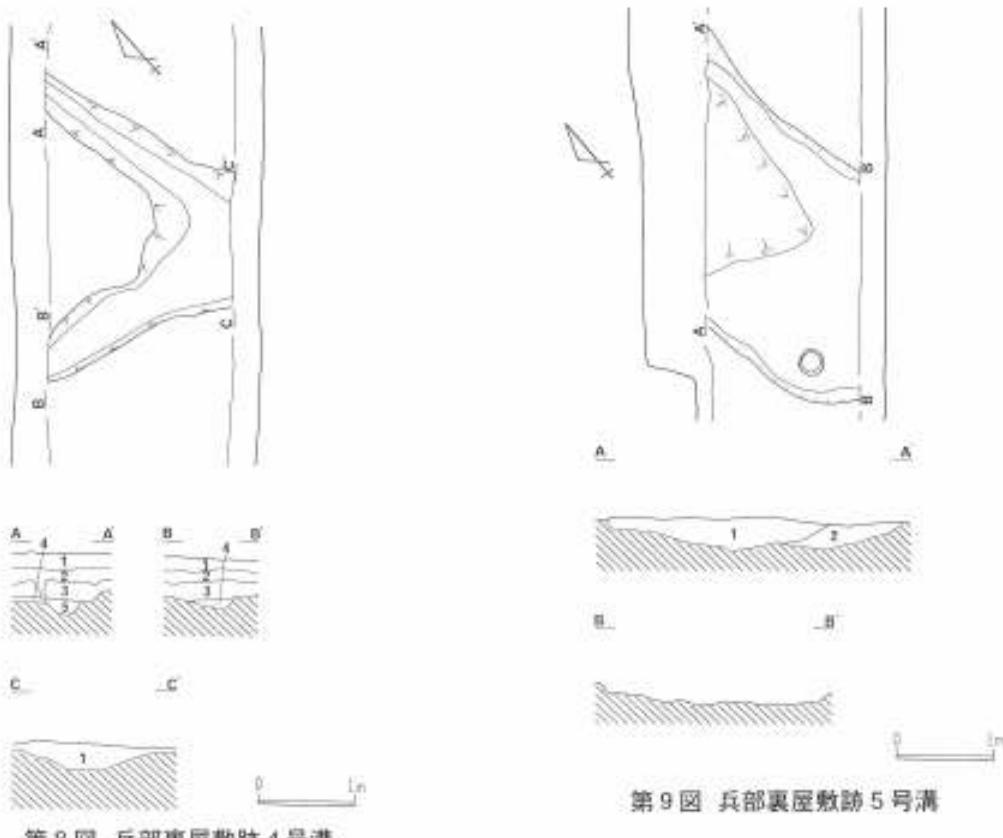
第7図 兵部裏屋敷跡3号溝

5号溝（第9図）

本溝は、6区で検出され、4号溝の南西約7.5mの位置にあり、主軸はほぼ南北方向である。北側は三角形に浅く掘り込まれており、南側にはピットが掘られている。土層は、1層が黒褐色土（7.5YR-3/1、灰黄褐色土を含む）、2層が灰黄褐色土（10YR-4/2）であった。規模は、断面A-A'で上幅3.15m、下幅1.09m、深さ32cmであり、ピットは直径25cm、深さ7cmであった。遺物は埴輪片が出土した。第5図-3は円筒埴輪の胴部であり、外面は縦方向の刷毛目、内面は斜めの刷毛目で調整されている。胎土は白色砂粒・雲母・赤褐色粒子・黒色砂粒を含み、焼成は良好である。色調は外面は明赤褐色（2.5YR-5/8）で、内面は明赤褐色（2.5YR-5/6）である。凸帯は、断面が三角形である。

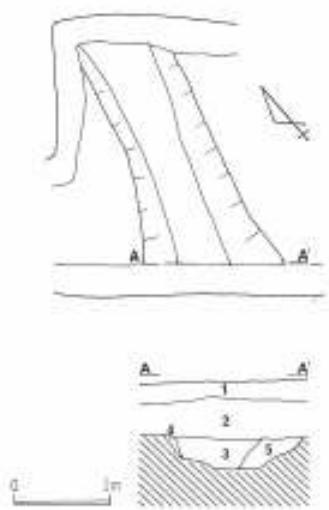
6号溝（第10図）

本溝は7区で検出され、主軸はほぼ南北方向であった。土層は1層が表土、2層が純い黄褐色土（10YR-5/3）、3層が褐色土（10YR-4/4）、5層が灰黄褐色土（10YR-4/2）であった。規模は、断面A-A'で上幅1.5m、下幅42cm、深さ35cmであった。遺物は検出されなかった。

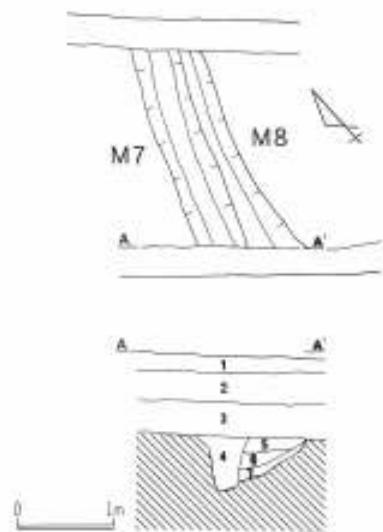


第8図 兵部裏屋敷跡4号溝

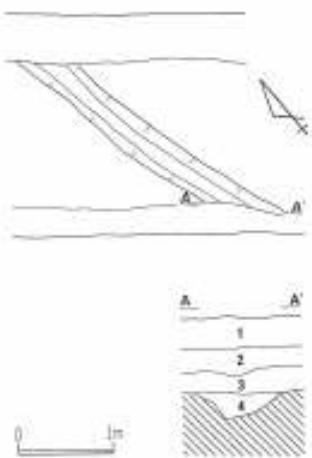
第9図 兵部裏屋敷跡5号溝



第10図 兵部裏屋敷跡 6号溝



第11図 兵部裏屋敷跡 7・8号溝



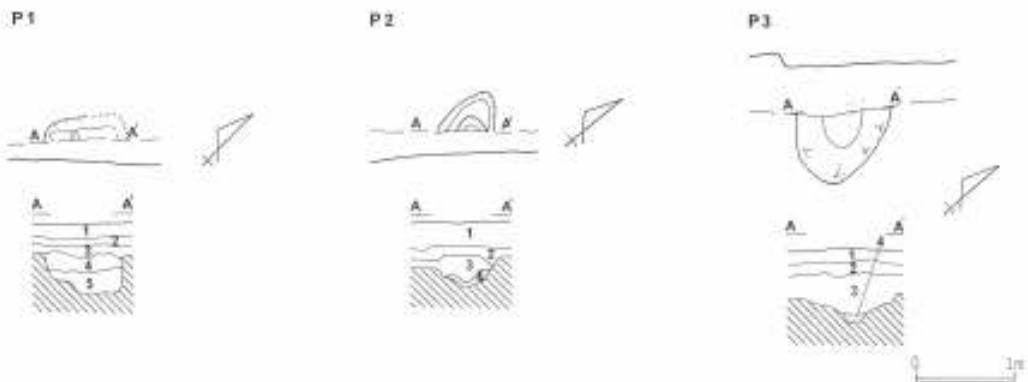
第12図 兵部裏屋敷跡 9号溝

7号・8号溝（第11図）

本溝は6号溝の東へ2.7mの位置に検出され、主軸はN-23-Eで、8号溝は7号溝に平行して走り、7号溝によって切られていた。土層は、1層が表土、2層が鈍い黄褐色土(10YR-5/3)、3層が鈍い黄褐色土(10RY-5/2)、4層が鈍い黄褐色土(10YR-4/2)、5層が褐色土(7.5YR-2/3)、6層が褐色土(10YR-4/4)、7層が鈍い黄褐色土(10YR-5/3)であった。規模は、A-A'断面で8号溝が深さ46cm、7号溝が上幅56cm、下幅20cm、深さ58cmであった。遺物は検出されなかった。

9号溝（第12図）

本溝は8号溝の南東に検出され、主軸はN-13-Wであった。土層は1層が表土、2層が攪乱、3層が鈍い黄褐色土(10YR-5/3)、4層が黒褐色土(10YR-3/2)であった。規模はA-A'断面で上幅98cm、下幅26cm、深さ27cmであった。遺物は検出されなかった。



第13図 兵部裏屋敷跡 1～3号ピット

3 兵部裏屋敷跡ピット

1号ピット（第13図）

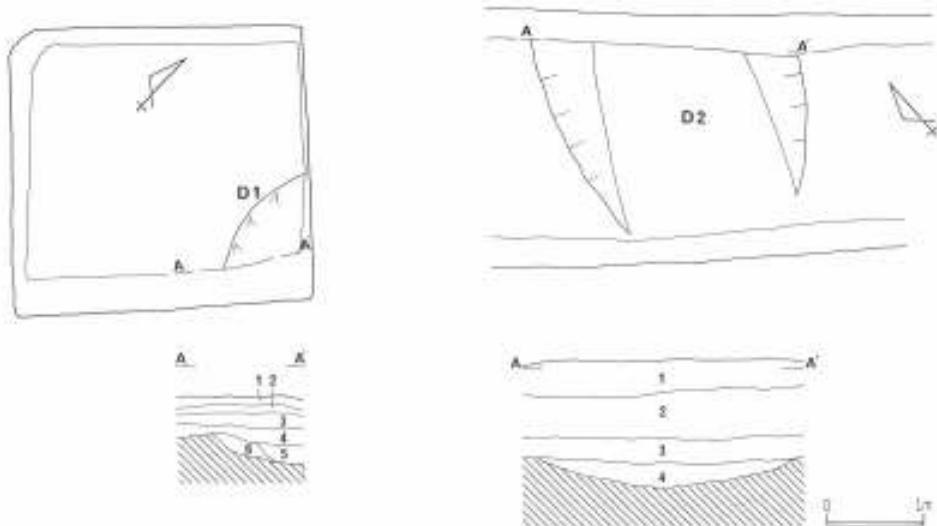
本ピットは、6区の北側で検出され、3号溝を切っていた。土層は1層が表土、2層が暗灰黄砂質土（2.5Y-4/2、火山灰を含む）、3層が黄褐色砂質土（2.5Y-5/3）、4層が灰黄褐色土（10YR-4/2）、5層が暗灰黄褐色土（2.5Y-4/2、砂を含む）であった。方形を呈すると考えられ、規模は、A-A'断面で径80cm、深さ42cmであった。遺物は検出されなかった。

2号ピット（第13図）

本ピットは、1号ピットの南西で検出された。土層は、1層が表土、2層が暗灰黄砂質土（2.5Y-4/2）、3層が黄褐色砂質土（2.5Y-5/3、火山灰を含む）、4層が灰黄褐色土（10YR-4/2）、5層が暗灰黄褐色土（2.5Y-4/2）であった。梢円形を呈すると考えられ、規模は、A-A'断面で径64cm、深さ36cmであった。遺物は検出されなかった。

3号ピット（第13図）

本ピットは、2号ピットの南西で検出された。土層は、1層が表土、2層が黄褐色砂質土（2.5Y-5/3）、3層が黒褐色土（10YR-4/2、灰黄褐色土アロウを含む）、4層が褐灰色砂質土（10YR-4/1）であった。梢円形を呈すると考えられ、規模は、A-A'で径1.04m、深さ34cmであった。遺物は埴輪片が出土した。第5図-4は円筒埴輪の胸部で、内外面とも指なでで調整されている。胎土は白色砂粒・雲母・赤褐色粒子・黒色砂粒を含み、焼成は良好である。色調は内外面とも明赤褐色（2.5YR-5/6）である。凸帯は、断面が三角形である。



第14図 兵部裏屋敷跡 1・2号土坑

4 兵部裏屋敷跡土坑

1号土坑（第14図）

本土坑は、1区で検出されたが、西側の一部だけであった。土層は1層が表土、2層が黄褐色砂質土（2.5Y-5/3）、3層が灰黄褐色土（10YR-4/2）、4層が黒褐色土（10YR-3/1）、5層が黒褐色土（10YR-3/2）、6層が灰黄褐色土（10YR-4/2）であった。規模は、深さ34cmであった。遺物は検出されなかった。

2号土坑（第14図）

本土坑は、7区で検出され、長軸はN-22-Eであった。土層は1層が表土、2層がにぶい黄褐色土(10YR-5/3)、3層がにぶい黄褐色土(10YR-5/3・2層よりもしまりが強い)、4層が黒褐色土(10YR-3/2)であった。梢円形を呈すると考えられ、規模は、東西幅2.73m、深さ27cmであった。遺物は検出されなかった。

5 兵部裏屋敷跡谷状遺構（第15図）

本遺構は、4区で検出され、南西方向へ傾斜していた。土層は、1層が表土、2層が暗灰黄褐色砂質土(2.5Y-5/2)、3層が灰黄褐色土(10YR-4/2)、4層が褐灰色土(10YR-4/1)、5層が灰黄褐色土(10YR-4/2、粘性を持つ)、6層が黒褐色土(10YR-3/2)であった。規模は、B-B'断面で深さ46cmであった。

6 遺構外出土遺物

円筒埴輪（第16図）

1 胴部であり、外面は縦方向の刷毛目、内面は斜めの刷毛目で調整されている。胎土は雲母・白色砂粒・赤褐色粒が見られ、焼成は良好である。色調は外面は赤褐色(5YR-4/8)、内面はにぶい橙色(7.5YR-6/4)である。凸帯は、断面が三角形である。

2 胴部であり、外面は縦方向の刷毛目、内面は斜めの刷毛目で調整されている。胎土は白色砂粒・少しの雲母が見られ、焼成は良好である。色調は外面は橙色(7.5YR-6/6)、内面は灰黄褐色(10YR-6/2)である。凸帯は、断面が三角形である。

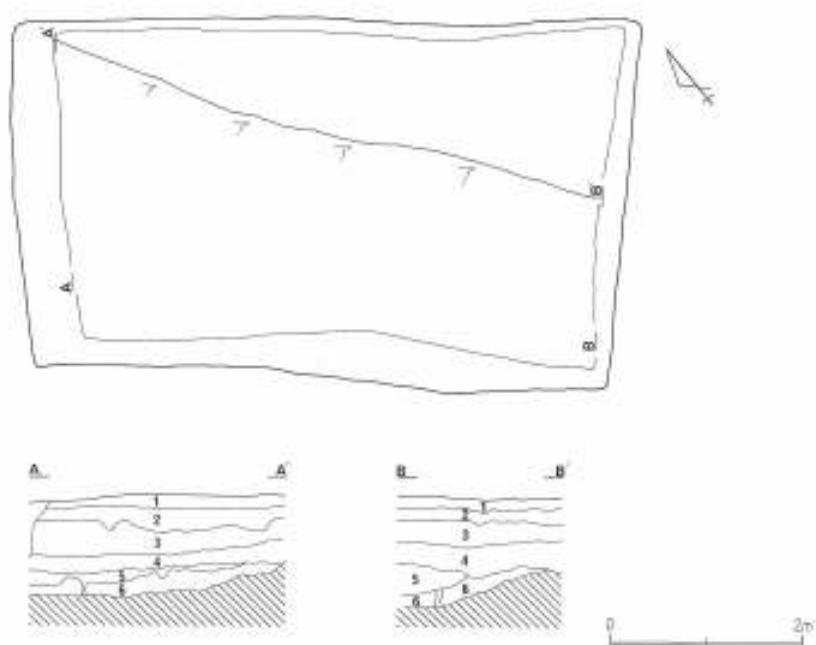
4 胴部であり、外面は縦方向の刷毛目、内面はへらなでで調整されている。胎土は白色砂粒・雲母・赤褐色粒が見られ、焼成は良好である。色調は外面は赤褐色(5YR-4/8)、内面はにぶい赤褐色(5YR-5/4)である。凸帯は、断面が三角形である。

5 胴部であり、外面は縦方向の刷毛目、内面は斜めの刷毛目で整形されている。胎土は白色砂粒・雲母・赤褐色粒が見られ、焼成は良好である。色調は外面は赤褐色(2.5YR-4/8)、内面は赤褐色(5YR-4/8)である。凸帯は、断面が台形で、透孔は円形である。

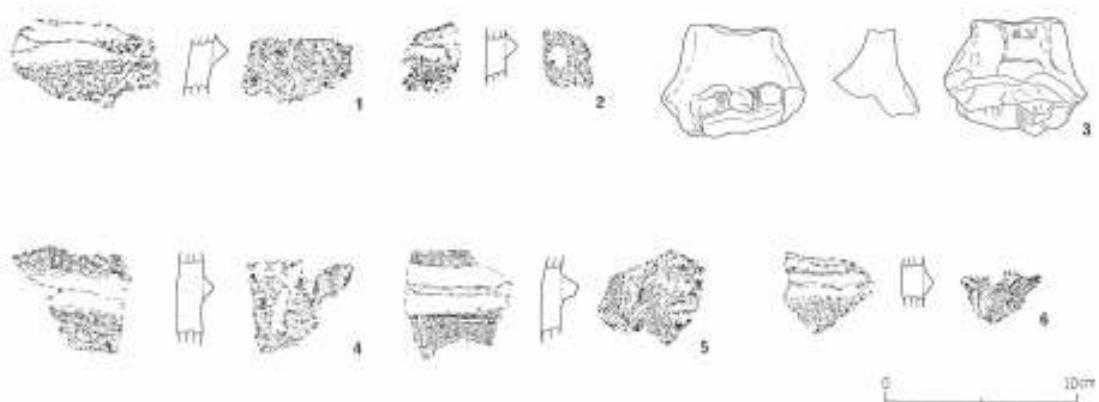
6 胴部であり、外面は縦方向の刷毛目、内面は斜めの刷毛目で整形されている。胎土は白色砂粒・雲母・赤褐色粒が見られる。焼成は良好である。色調は内外面とも明赤褐色(5YR-5/6)である。凸帯は、断面が三角形である。

形象埴輪（第16図）

3 大刀形埴輪の柄の護拳部であり、三輪玉と呼ばれる玉飾りが付けられている。内外面はなでられている。胎土は白色砂粒・雲母・赤褐色粒が見られ、焼成は良好である。色調は内外面とも明赤褐色(5YR-5/6)である。



第15図 兵部裏屋敷跡谷状遺構



第16図 遺構外出土遺物

VI 調査のまとめ

今回の調査によって、石原古墳群7号墳は周溝が検出され、兵部裏屋敷跡からは溝9条・ピット3個、土壙2基、谷状遺構1基が検出された。

7号墳の周溝は、一部分が確認され、埴輪片も数点確認されただけであった。

遺構外出土遺物の中で、大刀形埴輪は破片であるが、柄の護拳部が出土し、類例は花園町黒田17号墳で見られ、県外では群馬県太田市塚廻り4号墳で見られる。

兵部裏屋敷跡は、久下直光の兄、楊井憲春の居館跡と伝えられ、楊井氏は石原兵部裏に住んだといわれ、「しょうぶら」の地名が残されていることから、楊井氏の居住地と言われている。

兵部裏屋敷跡は溝が9条確認され、その中で、4号溝は二股に分かれた状態で検出され、5号溝は北側に浅い落ち込みがみられた。ピットは3基とも調査区域外に広がりがあり、それぞれ約半分が確認された。谷状遺構は調査区域の南側の4区に検出されたが、東から西側へ落ち込んでいて深い部分は現地表から1.2mの深さであった。

これらの溝等が、兵部裏屋敷と関連があるかについては、調査箇所の面積がごくわずかであること、溝等に伴う遺物が出土していないこと年代が明確でないことにより、むずかしいと考えられる。

報告書抄録

ふりがな	いしはらこふんぐんななごうふん・ひょうぶうらやしきあと							
書名	石原古墳群7号墳・兵部裏屋敷跡							
副書名	平成9年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
所在地	熊谷市宮町二丁目47番地1				TEL 0485-24-1111			
発行年月日	西暦1998(平成10)年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	(°'")	(°'")					
いしはらこふんぐん 石原古墳群 ごうふん 7号墳	さいたまけんくまがやし おおあざわいしはら 埼玉県熊谷市大字石原 あざわあじんまち 字天神前 1252-26	11202	077	36°09'01"	139°22'03"	19970501～ 19970512	85.5	浄化槽設置工事。 擁壁工事。 通路工事
同上	11202	085						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
いしはらこふんぐん 石原古墳群 ごうふん 7号墳	古墳	古墳時代	周溝	埴輪片				
ひょうぶうらやしきあと 兵部裏屋敷跡	集落跡		溝・ピット・土坑					

石原古墳群 7号墳・兵部裏屋敷跡
写真図版

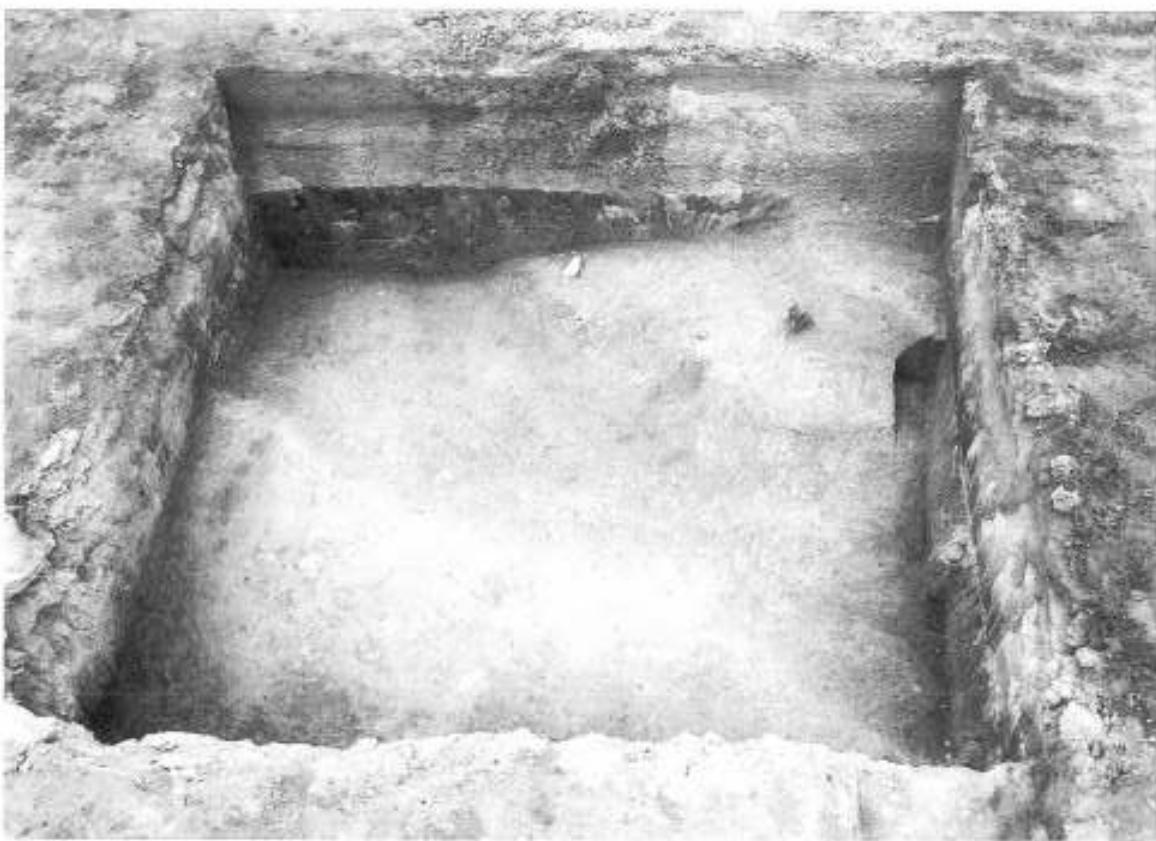


1 北からの遠景

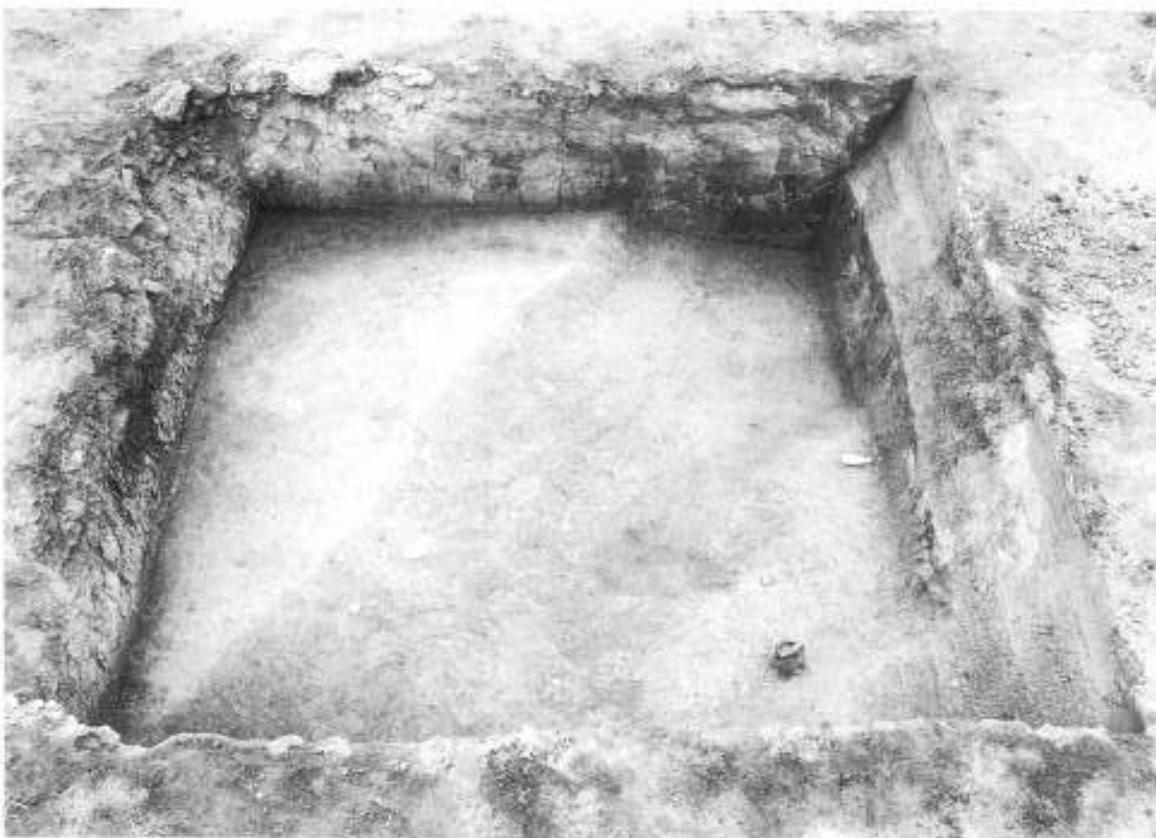


2 南からの近景

図版 2



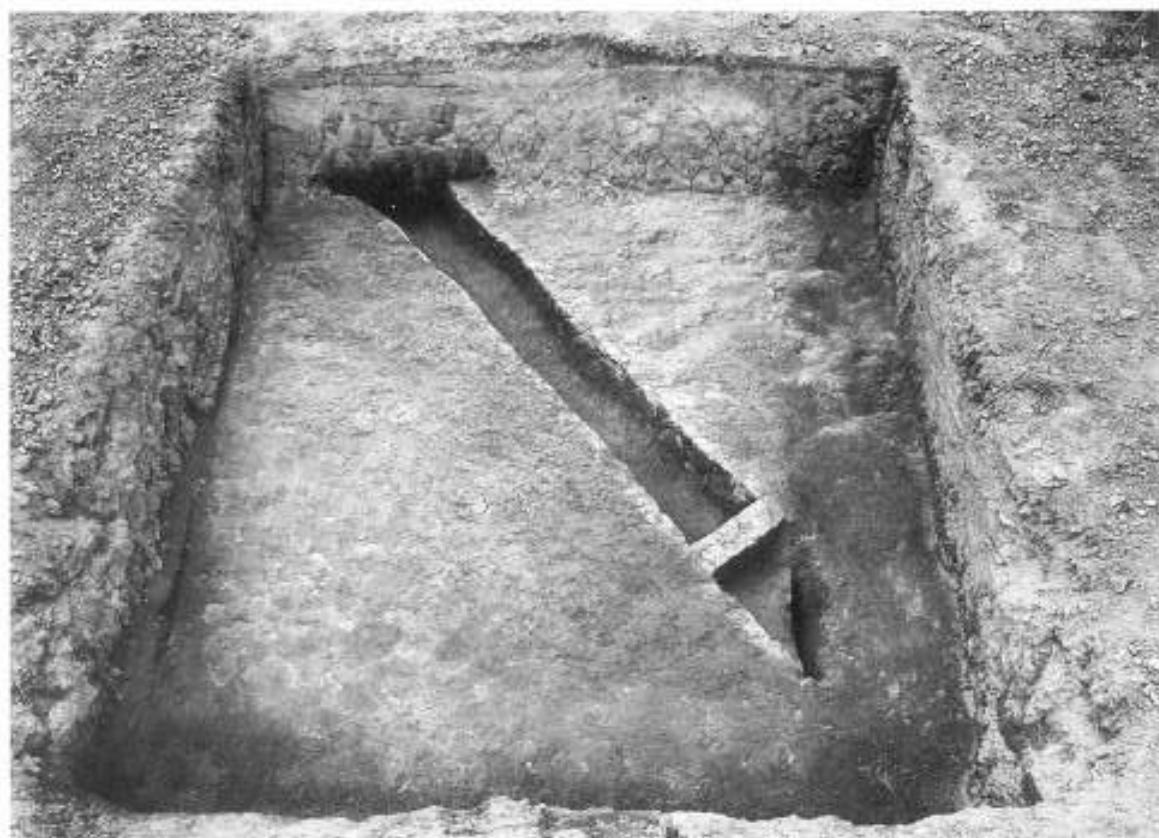
1 石原古墳群 7 号墳（西から）



2 石原古墳群 7 号墳（南から）



1 石原古墳群 7号墳南壁断面



2 兵部裏屋敷跡 1号溝

図版 4



1 兵部裏屋敷跡 2号溝



2 兵部裏屋敷跡 3～5号溝、1～3号ピット



1 兵部裏屋敷跡 3号溝、1号ピット

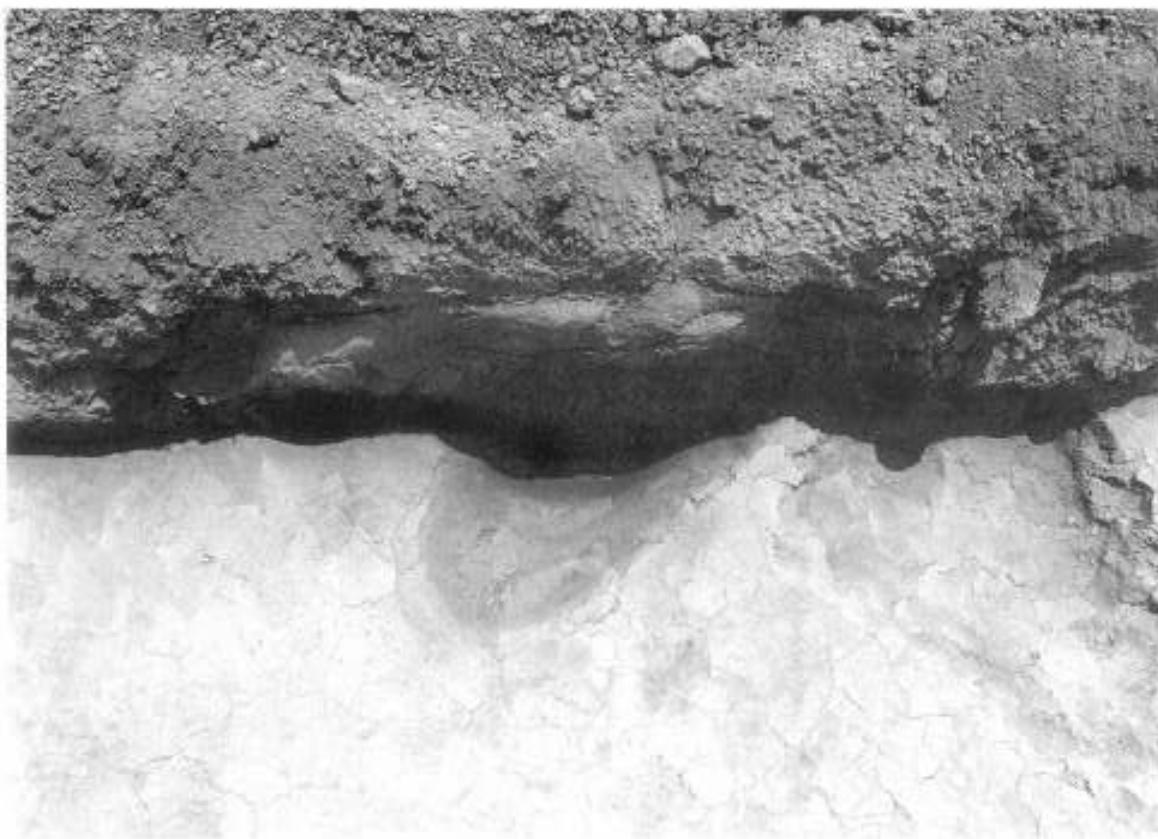


2 兵部裏屋敷跡 4号溝

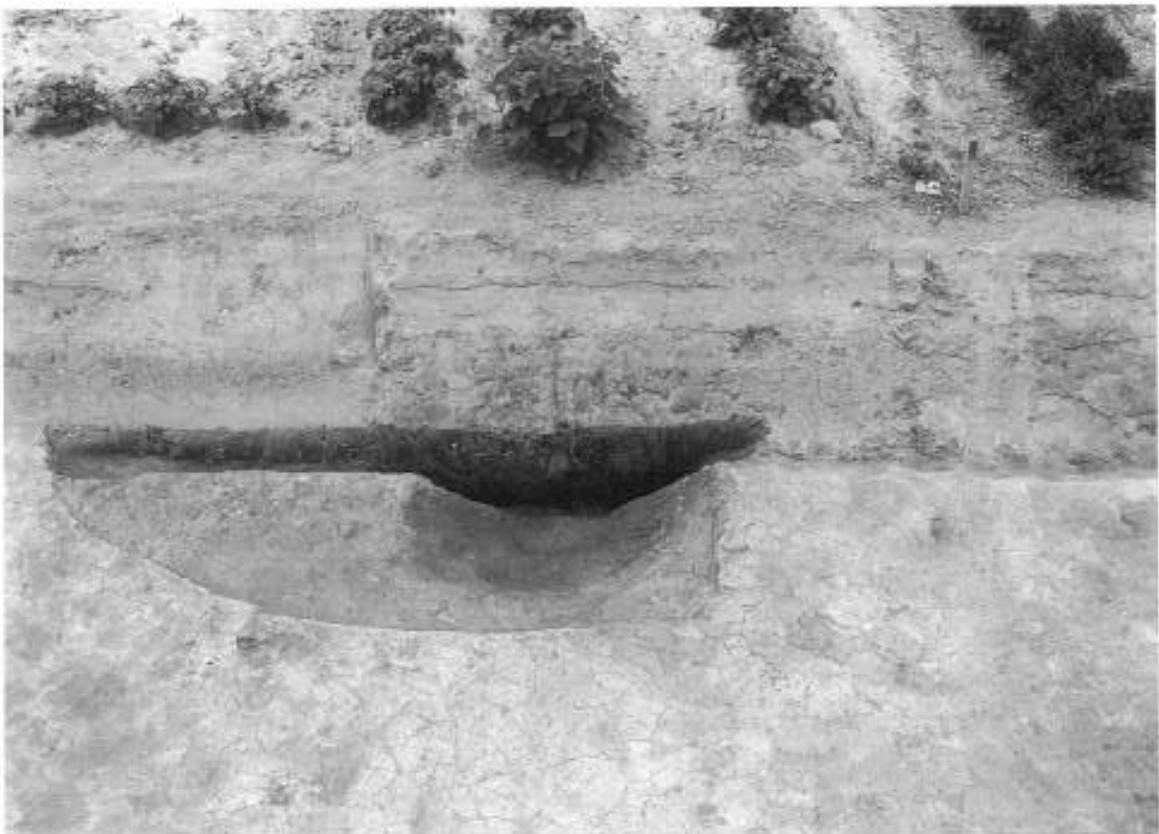
図版 6



1 兵部裏屋敷跡 5号溝



2 兵部裏屋敷跡 2号ピット



1 兵部裏屋敷跡 3号ピット



2 兵部裏屋敷跡 1号土坑

図版8



1 兵部裏屋敷跡谷状遺構



2 発掘風景



1 発掘風景



2 発掘風景

図版10



1 石原古墳群 7号墳、兵部裏屋敷跡 5号溝・3号ピット出土遺物



2 遺構外出土遺物

平成9年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
石原古墳群7号墳・兵部裏屋敷跡

平成10年3月31日発行

発行／埼玉県熊谷市教育委員会
印刷／株式会社 博文社



さくらのまち“咲谷”